



# 電子部品部 活動報告

「主要電子機器の世界生産状況（2011年～2013年）」 発刊  
「2022年までの電子部品技術ロードマップ」の発刊・報告会開催  
電子部品部

## 「主要電子機器の世界生産状況（2011年～2013年）」 発刊

電子部品部会／調査統計委員会では、例年電子部品企業のマーケティング情報と部品納入ベースからの推定調査により、世界主要地域・国別の生産台数の実績値と見込値の算出を行っている。同委員会は、最新の調査結果を本年3月に冊子「主要電子機器の世界生産状況2011年～2013年」として発行した。

欧州債務問題の長期化の影響もあり、世界的に電子機器の需要に陰を落としているが、その中でも需要を牽引しているのが、やはりスマートフォンおよびタブレット端末である。

日系比率の高いコンパクトデジタルカメラ市場においては、スマートフォンとの競合の影響が見受けられるが、一方でレンズ交換式デジタルカメラの需要は堅調である。そこで今回は、レンズ交換式を一調査品目として取り挙げた。

また、これまで調査対象としていたカーオーディオについては、今回から対象外とした。

地域的にみると、引き続き多くの品目について中国での生産比率が非常に大きいのが、労働争議や賃金上昇、情勢不安の影響もあり、インド、ベトナムなどの台頭も目立ってきている。チャイナプラスワンの動きを今後も注視していく必要がある。

なお、本冊子は、日本語と英語を併記している。

### 【調査対象】

- ・カラーテレビ
- ・フラットパネルテレビ
- ・ビデオレコーダおよびプレーヤ
- ・カーナビゲーション
- ・デジタルカメラ
- ・レンズ交換式デジタルカメラ
- ・携帯電話
- ・スマートフォン
- ・パソコン（デスクトップ及びノート）

- ・ノートパソコン
- ・ハードディスク
- ・タブレット端末（パネルが6インチを超えるもの）

### 【調査期間】

2012年12月

### 【調査対象年】

2011年、2012年および2013年

### 【調査対象地域】

- ・日本
- ・中国
- ・アジア（日本および中国を除く）
- ・北アメリカ（メキシコを含む）
- ・南アメリカ
- ・ヨーロッパ（東ヨーロッパを含む）

### 【調査参加会社】

電子部品部会／調査統計委員会参画の電子部品企業 20社

■編集・発行：JEITA 電子部品部会調査統計委員会

■体 裁：A4版 25頁

■頒布価格：JEITA 会員 3,000円  
 一般（非会員） 6,000円  
 （送料別、消費税含む）



「2022年までの電子部品技術ロードマップ」の発刊・報告会開催



電子部品部会 / 技術委員会 / 部品技術ロードマップ専門委員会では、2011年に発行した「2020年までの電子部品技術ロードマップ」を全面改訂し、「2022年までの電子部品技

術ロードマップ」として取りまとめた。

本ロードマップでは、電子部品を扱う技術者あるいは関係者を対象に電子部品を取り巻く環境、電子部品の現状、10年後までの今後の動向および将来への夢などを提示している。

最初に注目するフィールドでは、「ヒューマンライフ」、「モビリティ」、「エネルギー」を取り上げて人を中心に生活空間を考えて未来を描いた。これまでの機器セットではなく、市場として捕らえている。続いて重要な要素技術である電子部品については、「インダクタ」、「コンデンサ」、「抵抗器」、「LCR 部品共通課題」、「EMC 部品（含む ESD 部品）」、「高周波デバイス」、「コネクタ」、「入出力デバイス」、「センサ・アクチュエータ」、「電源」、「電子部品材料」における最新動向を取りまとめた。さらに、「ヘルスケア」、「サポートロボット」および「少子高齢化」をトピックスとして掲載している。

また、ロードマップ発刊に合わせて、東京と大阪で報告会を開催した。

①【東京報告会】

日時：2013年2月22日（金）  
10：00～16：30

場所：中央大学駿河台記念館

参加人数：226名（会員：162名、一般：62名、  
学生：2名）

この他に招待42名、報道関係9名に関係者（ロードマップ委員、事務局）を含め約310名が出席。（当日はほぼ満席状態で補助席を準備したような状況であった。）

②【大阪報告会】

日時：2013年3月1日（金）10：00～16：30  
場所：大阪国際交流センター

参加人数：131名（会員：106名、一般：25名）

この他に招待14名、報道関係1名に関係者（ロードマップ委員、事務局）を含め約170名が出席。



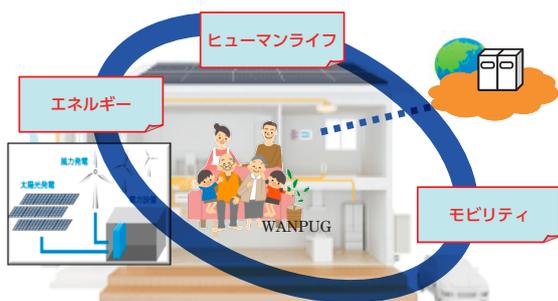
今回の報告会では、新たな試みとして部品技術ロードマップ専門委員会参加企業各社2名の新人社員無料招待枠を設け、製品教育の場として利用していただいた。また、学生枠を創設し、JEITA会員より安価な設定とした。

今回の2022年までのロードマップでは、電子部品業界として将来の市場を描き関連業界

へ想いを発信するとともに、将来の発展につながる活動を行ってきた。本ロードマップを是非、新たな方向性について議論する際の題材、電子部品技術の参考書、各社の社員教育用として広く活用していただきたい。

### 注目するフィールド（第2章）

- ・「ヒューマンライフ」（スマートフォン、タブレット、かしこい家電、スマートテレビ/ディスプレイ、エンターテインメント、住宅設備、住宅照明）
- ・「モビリティ」（環境対応車、電動パーソナルモビリティ、コネクティッドビークル、自動運転、EVの充電システム、ワイヤレス給電、車載充電器、BMS、インバータ、DC/DCコンバータ、エネルギー回生システム）
- ・「エネルギー」（社会全体のエネルギーマネジメント、スマートビルディング・スマートファクトリー、スマートハウス、エネルギーハーベスティング、エネルギー給電方法）



### 電子部品の技術動向（第3章）

- ・「インダクタ」、「コンデンサ」、「抵抗器」、「LCR 部品共通課題」、「EMC 部品（含むESD 部品）」、「高周波デバイス」、「コネクタ」、「入出力デバイス」、「センサ・アクチュエータ」、「電源」、「電子部品材料」

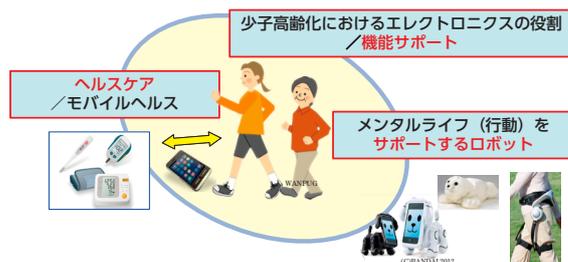
### トピックス（第4章）

- 豊かに人生を過ごすために健康は欠かせない。
- どれだけ望みどおりの生活を送ることができるか、QOL (Quality of Life : 生活の質) が注目されている。
- 自分の将来を考えるとすることは、現在の高齢者を考えることである。

そこからトピックスとして、高齢者の生きがいのある社会を考え、病気のケア、やすらぎ、生きがいの関連に注目しテーマを選定し記載した。

- ・「ヘルスケア」（ヘルスケア機器の例、モバイルヘルス、機器の今後の課題・動向）
- ・「サポートロボット」（メンタルサポートロボット、ライフケア・ライフサポート、歩行アシストカー「KeePace」の紹介、ロボットスーツ「HAL」の紹介、トヨタの「パートナーロボット」の紹介）
- ・「少子高齢化」（女性の社会進出、高齢者の生産性向上対応）

余白にはコーヒブレイクとして“ゼロ”に関する話題を中心に記載した。



■編集・発行：JEITA 部品技術ロードマップ 専門委員会

■体 裁：A4版 336頁

■頒布価格：JEITA 会員 5,000円  
 一般（非会員） 10,000円  
 （送料別、消費税含む）